

浄土宗回向文和訓圖會

中

特  
八波五  
1811  
3-2



門 八波 5  
號 1811  
卷 3-2

淨土宗回向文和訓圖會卷之中

浪華 好花堂野亭著

善導大師二河白道之譬喻并大意

抑善導大師と云、唐の道綽禪師の法弟にて世に弥陀佛の化身と稱し  
震且中興の名僧也曾て阿弥陀經を書寫する更十萬卷船名する  
小声毎小光明より出百声乃至光明室内あり唐帝聞其寺光  
明寺の勅号を下し給りたり然其頃金剛法師と博識の僧あり船  
領解する所と善導和尚の領解と相違すと云く互に法論となり西  
京寺といふ道場於て東西の二座の壇を構善導金剛東西に分れ  
高座より双方緒經を引く問答數刺及てもいふ優劣と決せず時



本宗

大谷  
文庫

善道師佛小誓て曰我勸る所の法、眞実なりて諸佛の眞慮に適り、  
堂中小安置する所の釈迦弥陀の二尊の像と、小光明を放て此場の聽衆  
を照し、五々善道が勸る法、義衆生を惑す邪義あるを、此高座より  
蹴落し、生かざる無間地獄へ落さる。永劫淳じ期あじり、更と大誓願を  
起し、如意を以て佛殿の釈迦弥陀の二像を指さる。不思議あるが、忍  
ち二佛の白毫より天光明を放ち、寺内を赫燦と照し、多き數万の聽衆  
此奇特を、皆存小堂で合し、音小称名したる。金剛法師大光明  
眼小遮ると、ひくく眼眩し高座より逆落、血を吐て阿絶し、是より善  
道和尚の法名愈々高く、鳴他カ本願の念佛大の世に流布したる。是  
此善導和尚念佛と勸る、一個の譬喩を、殺て凡夫を諭し、五々二河白道

の譬喩と、其喩、今東國小一人の者有て、西小向て遠く往んと欲す。小忍  
ち中途、小の河あり、其一も大河、而て南小有て、火焰烈くと燃え、今二水河  
小て北有て、波清溜くと、逆卷さる。二河、濁さとも、小百間余、而て底の深さ、限りなく  
二河の南北、何百間とも、量が、倍二河の間、小一條の白道あり、道の幅、僅小四五寸  
小過、と東西百間、終る。水河の浪、八屋、白道を濕し、大河の焰、絶ず、白道を  
燒、須臾も、間断かり。此人、大驚駭れ、四邊を、見れば、曠々と、更小人、皆不見  
む、多勢の、劫賊有て、我、草身、を、見、競ひ、来て、殺んとす。加之、あ、虎狼、惡  
蛇の、類、有て、は、追、来、噉んとす。是、小依て、白道を、往んとす。を、恐く、水火、二の  
河、没、命、を、恐、後、引返、を、却、賊、又、惡、獸、毒、虫、の、め、小殺、を、べ、と、進、退  
究、と、惶、怖、更、限、な、茲、小、於、て、又、想、道、我、今、後、引、返、を、殺、せん、先、往、て、也

火河ひのうへ水河みづのうへへ没なげて死します何なにれの  
 道みち死し免まぬればとももも何なにれに死し  
 る道みちおのれば命いのちとも抛なげて白道しろみちを  
 往まる心を定まて白道しろみち往まる處  
 小こ忽たまち東方あづま小こ声こゑ有あり汝迷まよひ取  
 ず其その道みちを往まる必ず死の難がたと免れず  
 後あと引ひ返かへり殺さる事ことと  
 又また西あづま方あづま小こ声こゑ有あり汝迷まよひ取  
 道みちを来きれ予汝なんぢと護念ごねんて水みづ火かの  
 河がへ落おちりしむ事ことと茲於こゝ於こゝ於こゝ



人ひと東あづま小こ遣つか西あづま小こ喚よびをて心こゝろと正ただ  
 一ひと決定けつぎと白道しろみち小こ守まもり往來り  
 一ひと步ひと二ふた步ふたす小東あづま岸あづまの群ぐん賊ぞく  
 喚よびて曰いは仁にん者しや廻まわり其道みち甚ただ  
 嶮あや悪あつ必かなず死る更疑うたがひか我われ  
 等ら敢あて悪心あくしんか廻りと異ちがひ口  
 小こ喚よびり予汝なんぢも耳小こゆけど  
 一ひと心こゝろ小こ白道しろみちの細道ほそみちを行む須臾ま  
 小こして西あづま岸あづま小こ到いた身み小こ過あや失あむかく  
 善よ友とも小こ相あ見みて慶樂が已いと更まり



とかり。右念佛ねんぶつの志こころす者の譬たとひ喻よびなり。此大意このおほいを解とくむ。○先東國まづとうこくの一人の者ひと有あり。東國とうこくと此娑婆このしやば世界の喻よび人の者ひと有あり。念佛ねんぶつの志こころす人を譬たとひす。○西向さいきやうて遠とほく往ゆくと欲ほす。極樂ごくらくへ往生じやうじやうせんと思おもふ。喻よびす。○中ちゆう途との河か有あり。其その火ひ河かは南みなみ有あり。火焰くわえん燈とう今いまも水みづ河かは波なみ濤たうと二河にが間ま百ひゃく間ま余あま底そこの深ふかき限かぎなく。南みなみ北きた量りやうがうと。衆生しゆじやうの愛あいと貪ひんがむ。水みづのうへに照てうり。憎にくむ念ねん火かのうへに照てうり。○二河にがの間ま一いつ條じやうの白道はくどうある。道の幅はた四よ寸すん。東西とうざい百ひゃく回かい絆きんと。一切いつせつ衆生しゆじやう貪ひんが瞋しん煩ぼん悩ねいの中ちゆう。僅わずかく極樂ごくらく往生じやうじやうを願ねがふ。善ぜん心しんある。喻よびす。○貪ひんが愛あい瞋しん憎にくの念ねんは維たもつても強つよむ。水みづ火かの河かの周まわり深ふかく。喻よび佛道ぶつどうを願ねがふ。心こころの微よこかたも。白道はくどうの狭せまく短みじかく。喻よびす。○水河みづがの浪なみは去きる。白道はくどうを濕ぬり。火河かがの焰えんは絶たつ。白道はくどうを燒やき。去きる。回かい断たつ。と。か。多おほく。

佛道ぶつどうの心こころきつて。稍せうもそれ貪ひんが瞋しん癡ちの煩惱ぼんねう起おりて。善心ぜんしんを妨さげ。○四邊しへんをえれば。曠くわうくとして。更さらも人ひと無なく。佛道ぶつどうへ教導かうたうす。人のあつた。喻よびす。○後ごとんれを。多勢たせいの劫賊せつせき有あり。我われ單身だんしんなり。とんれ。競きやうひ。来きて。殺ころす。ま。か。ず。虎こ狼ろう惡あく蛇だの類るい有あり。追おひ。来きて。噉くす。と。我われ今いまも。六む根こん六む塵ちんと。眼め小こ見み耳みみ小こ鼻はな小こ嗅か。舌した小こ味あじ。意い小こ思し。身み小こ觸ふ。物もの小こ就しゆ。種しゆ々々欲よく心の起おる。八はち皆みな其身そのみの敵てきなり。の喻よびなり。○是こ小こ依よて。白道はくどうと。往むかひ。水みづ火か河かへ。没めす。○此こ後ご引ひ返かへす。劫賊せつせきや。惡あく獸じゆ毒どく虫ちゆう殺ころす。而しかも。進退しんたい究きゆうと。惶怖きやうふる。度た限げんなく。と。適た佛道ぶつどうの入いれ。を。お。り。善心ぜんしんの微よこく起おる。也なり。用もち小こ憎にく愛あい欲よく惜しやくの煩悩ぼんねう小こ妨さげ。れ。後ご生じやうを。願ねがふ。真まの極樂ごくらく有あり。無なく。小こら。子こら。有あり。此身この。不ふ罪ざいあり。造つくり。是これ。善根ぜんこんの。も。せ。ぬ。者ものが。

とて極樂往生の思を進退究と惶怖の喻なり○又思道  
我後引返ても殺せん先(往)て水火の川没く死まば(何)の道死免  
か(道)あり命と捨つ(白)道を往(心)を定て(白)道(右)の  
て(往)生(疑)迷(中)あり(言)ふ(念)佛(万)小(極)  
樂(出)未(更)あ(思)返(念)佛(入)を(喻)なり○忽東方  
小(有)て汝(迷)を取(其)道(往)必(死)難(免)る(後)引(返)さ(殺)  
る(釈)迦(世)去(法)世(遺)愚(癡)の(九)夫(佛)道(教)導  
り(小)喻(又)西方(小)有(汝)心(正)て(此)道(未)三(汝)を(獲)て  
水(火)の(川)落(と)む(彌)陀(如)未(本)願(た)く(一)声(心)正(真)南  
無(阿)彌(佛)と(稱)る(者)予(其)者(獲)て(地)獄(を)落(と)す(必)と(極)樂

往生の事とどのの喻なり○此人東(遺)西(喚)を(定)て(心)正(決)  
定(白)道(尋)て(往)更(步)二(步)す(八)佛(の)教(難)有(更)を(定)て(心)を  
正(直)持(念)佛(を)せ(助)る(更)や(心)を(決)定(念)佛(入)を(喻)○東  
の(岸)の(群)賊(亦)喚(て)白(仁)者(廻)其(道)甚(か)險(惡)乎(死)る(小)疑(小)  
我(等)敢(て)惡(心)か(廻)と(異)口(喚)る(八)佛(道)心(ぞ)も(猶)貪(瞋)  
癡(の)煩(悩)起(り)稍(も)た(善)心(を)妨(ふ)す(小)喻(○)慈(の)耳(の)  
う(け)ず(心)白(道)の(細)道(と)往(須)臾(小)西(岸)小(到)身(小)過(失)中(乃)く  
善(友)小(相)見(て)慶(樂)已(更)不(八)煩(悩)の(惡)心(起)と(猶)心(を)滅(め)  
一(心)小(念)佛(者)と(成)煩(悩)の(惡)心(起)ら(ぬ)乎(小)か(り)と(臨)終(小)緒(乃)苦  
痛(なく)往(生)の(望)を(遂)極(樂)小(於)て(緒)佛(善)薩(と)交(て)慶(樂)と(極

また凡佛果を得との喻から、緘小難有脚譬、喻して女童にて悟  
安く解安しよと、思考(百)早く念佛(百)入現世の苦患と免  
と来世と九品浄土(往生)限ある樂と受る身と(何)ある程  
朝夕佛檀小向(看経)する(回)向(文)百(遍)の(鼓)願(文)一(枚)起(清)筆(の)  
大意(を)次(く)記(す)能(く)續(て)心(得)る(事)

看経之心得 并 焼香文

とれ朝夕佛檀小向(看経)する(小)手(水)をつ(り)身(心)も清(浄)し(て)徐  
小佛(前)坐(し)先(黙)礼(して)燈(明)と挑(げ)五(種)香(白)又(き)線(香)を(炷)と(居)  
整(り)氣(を)せ(し)つ(は)合(掌)し(て)如(来)と拜(礼)し(て)十(念)を唱(へ)左(の)文(を)  
稱(へ)む(心)中(小)緒(の)雜(度)と思(ふ)を(心)小(弥)陀(如)来(と)念(む)を(念)れ(り)

願我身淨如香爐 願我心如智慧火  
念々焚燒戒定香 供養十方三世佛

右焼香文の意ハ ○願ハ我身の淨(と)香爐の如(と) ○願ハ我心  
智慧の火の如(と) ○念々(と)戒定の香(を)焚燒(して) ○十方三世の佛を  
供養(し)ま(る)よ(の)義(なり) ○十方(と)六(と)天地(を)四(隅)を(り)各(各)淨(ま)あ(り)て(佛)の  
佛(住)ま(る)三(世)と(六)過(去)現(世)未(世)と(り)と(れ)香(負)離(穢)と(号)し(て)是(を)炷  
と(れ)其(白)馥(郁)と(して)天(地)四(方)小(萬)物(を)穢(と)離(不)淨(と)拂(ひ)神(の)  
佛(の)其(芳)と(好)し(て)来(降)し(て)惡(魔)外(道)惡(敷)毒(虫)其(香)と(怕)  
て(退)去(され)雷(の)鳴(と)香(を)炷(あ)る(は)線(香)と(炷)も(雷)難(と)除



ともなり。近例は小袖の香と煙り  
 或は掛香を用ゐるを虫生せむと書物  
 油の物糊氣ある物の樟腦を入す  
 を虫の生ぜんも香氣の徳なり唐  
 未だ貴人の通行は諸人香と煙で  
 其行装と拜見するも路の穢不浄  
 と穢なり入香を懐中すれを流行  
 病を傳染す狐狸小魅とす穢小  
 香の徳故奉じされを佛と拜する  
 小第一番小香と煙たり次は三礼を

三寶三禮

一心敬禮十方法界常住佛  
 一心敬禮十方法界常住僧  
 一心敬禮十方法界常住法

○三寶とハ佛と法と僧との三をり。三礼とハ以上の三を礼拜する也。これ釈迦牟尼佛一切衆生の諸の罪と造り地獄畜生餓鬼修羅等の惡道(落る)更と哀愍の心(心)救渡世界へ仮不生と出の(出)佛法と(と)教をせぬ弘め徒弟の僧と以て遍く衆生を脱聞せ惡と懲(懲)善と勸(勸)せて極樂世界へ往生する道を導きしめたり。佛界出の(出)法と(と)教と(と)衆生佛果を得る便なり。法ありとも教示す僧ありとも



衆生佛法の難有を更を知り能く依て佛法僧の三を崇て三宗と  
稱するを末世といふ僧も金貴も賤も親迎佛の法弟あり身を  
慎み懇く佛法を教示すを能く有り○一心と八心は他の更を思ふと心は  
佛を念ふ助ふと願を以○敬礼と敬はるや更礼は両手佛の  
御足と受戴く意をて頭を低て拜といふなり○十方法界といふ地も  
東西南北の四方も良巽乾坤の四隅も皆浄土ありて佛任の十  
方といふ法の世界なりとの義なり○常住といふ常小住と刻て佛法僧  
の三密十方の法の世界小常小住といふ更次小十方の緒佛奉請文  
を唱へむ合掌一頭を下小付む千念を稱て後事下

十方如來奉請文

南無西方願王阿彌陀架○南無大恩教主  
釋迦牟尼如來○南無大慈大悲觀世音  
菩薩○南無得大勢至菩薩○其外十方  
三世諸佛菩薩無量無數心護念○十念と稱下  
右十方世界の緒佛緒菩薩を佛檀へ結下奉る○哀愍  
あれとむといふ更○護念といふよりむといふ更なり次小懺悔文と唱  
懺悔文

我昔所造諸惡業 皆由無始貪瞋癡

從身語意之所生 一切我今皆懺悔

右懺悔文の意ハ先○懺悔の二字ハ懺悔と訓ク是ト爲ス罪  
科を我ト心ハ我ガウ是ト善クぬ更成付テ此後ハ決テ惡ト更  
ハ致ス事ハト身を悔心成改テ懺悔ス事トイカク如是佛ハ  
ナリテ身ハ罪科を眞実ハ懺悔ト改テ是道爲ス罪科ハ朝日ハ  
霜の解ル如ク消失ス事ハ故ト如來ハ懺悔滅罪ト説クハ懺悔ス  
事ト何カハ罪科ハ消滅ス事ト○我昔所造諸惡業トハ我昔  
ト造ル所ハ諸の惡業トハ義ナリ昔ト二十年ハ昔ト二十年ハ昔ト  
小おも心成改テ今日只今トハ義ナリト云ク○皆由無始貪

瞋癡トハ右造ル所の惡業ハ皆貪瞋癡の心ト始メ無由ト  
の更ナリ貪瞋癡の三を身の三毒トイテ滅ハ怖テ怨敵ヲ  
此三毒の身ト離ス事ト百般千般の罪科ト造ルカク貪瞋  
癡ナル念の起ル事ト又三毒の敵ガ身ト責ル事ト思ハ心成改テ  
○從身語意之所生トハ身の語意後生ス事ト所ナリトハ更ハ貪  
瞋癡の三毒ハ入ル我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ  
ト我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ我ト心ハ  
造ル惡業何ハ個トハ更我今皆懺悔トハ我今ト皆懺悔改テ  
トハ義ナリト彼佛在世ハ提婆達多ハ初尊ト弑トシテ生カ  
無間地獄ト落ル目蓮尊者ハ逢テ身の罪ト懺悔佛弟ト



かりて佛果を得たり。又北國塚中  
 谷の老女も一時の懺悔により  
 てきよも慳貪嫉妬の身も勿半  
 善女人となり脱ぎぬ般若の面肉  
 ろろろ落て遂に往生の素懐と  
 とが肉付の面を未せまで遺す  
 此外懺悔の依惡心却て善心よ  
 且佛道小飯して佛果を得る者  
 筆多小違ふ聖人の過て改ふ  
 悼更勿れといひ懺悔とは大意

かり是正なる事ハ是非もなり。一時も早く懺悔し念佛門に入罪を  
 滅し後世安樂を願ふなり。偕懺悔文の次ハ發願文と唱へ

發願文

願弟子等臨命終時心不顛倒心不錯乱心  
 不失念身心無諸苦痛身心快樂如入禪定聖  
 衆現前乘佛本願上品往生阿彌陀佛國到  
 彼國已得六神通入十方界救攝苦衆生虛  
 空法界盡我願亦如是發願已至心歸命阿彌陀佛

光明遍照十方世界 念佛眾生攝取不捨

右念願文の善導大師の御作にて阿彌陀經の是人終時心不顛  
倒即得往生阿彌陀佛極樂國土の文の基つて述りて述りて入高  
願弟子等と願弟子の等といふ事にて遍く念佛者とすす約あり  
淨土の今念佛を稱る人僧俗男女とも皆釈迦如來の弟子なり師  
我の物學者と弟の如く子の如く思て慈愛教導がも弟子と稱す等  
等とも等とも等とも刻て廣く衆生とすす辭なり○臨命終時と  
已小現世の縁尽命終んとする時小臨てといふ事にて息引らんとする時  
○心不顛倒と顛倒と刻字にて臨終の苦ふて心が顛倒或は妻子小

心引られ或畜金銀小念が残り末期の平生の信心も顛倒迷ふ者  
なり也何事も捨心小助又南无阿彌陀佛と稱すも心顛  
倒せぬことなり○心不錯乱と八錯八錯とも錯とも刻乱とれるも臨  
終の苦痛や妻子金銀ふと心が錯り乱るものあれば一心念佛と  
せむ心錯乱ぬことなり○心不失念と八失念八念を失と刻く平生の  
何でも未来て八極樂へ往生せん念一の臨終の苦ふ心顛倒錯乱  
して其義を忘失ふものあれば一心念佛とれむ正念と失すと  
○身心無諸苦痛身心快樂と八無諸苦痛八諸の苦痛無と  
の更快樂と快く樂と刻一亦助又南无阿彌陀佛と稱る功力で臨  
終の心顛倒せむ心錯乱と極樂往生と念事も忘失ぬも身心も歸

して苦痛もなく快楽なりとあり○如入禪定と八禪八禪ありと訓  
定八定なりと心閑なる所坐禪とすといふ臨終の苦痛もなく快  
く樂して坐禪の室へ入如とたり○聖衆現前と八聖八聖と訓衆  
ハ大勢の更二十五菩薩及び諸の佛菩薩を聖衆といふ現前八前  
現るといふ義にて念佛信心の功德にて臨終の衆の佛菩薩が極樂へ  
引接のめ我前現とすといなり○乘佛本願上品往生阿弥陀  
佛國とハ佛の本願の乘て上品の阿弥陀如來の國へ往生とたり已ハ  
佛菩薩の引接のあづり沙婆婆世界と去九品の淨土とて九品も極樂  
の内でも上品淨土とて此上もあら莊嚴の極樂へ往生ハ念佛の功力なり  
佛の本願とハ阿弥陀如來四十八條の誓願をまゐる其四十八願の中での

第十八の願ハ我を頼む者を成佛させずんば正覺を取らんと有此御誓願  
小乘せし阿弥陀佛の御國へ往生すと乗ハ任世願とて字へ判  
彼國已得六神通とハ彼國不到已ハ六神通を得てとい更なり彼國  
とハ即ち弥陀佛の國と所謂極樂なり念佛の功力にて極樂の上口上  
生の往生を上智の佛とて此上もあら尊の佛となり六神通とて自由  
自在の通力を得るなり六神通とハ一天眼通とて居かると三千世界の更  
及び六天上の更下ハ地の底の更過去現世未來三世の更をも見通して  
知通力なり二小天耳通とて三千世界及び天上地下過去現世未來三  
世の更をも居かると知通力なり三他心通とて三千世界千萬億  
無量の衆生ハ心と思ふ事をよく知る通力なり四宿命通とて三千

大千世界天上地下小栖人間禽獸魚虫  
 小至るまで過去現世未來三世の因と果  
 を悉く知通カケり。亦神境通とて  
 三千世界の神佛の更何國ハ何といふ  
 神何といふ佛在いづる功德有といふ知  
 通カケり。六小漏盡通とて世界万国  
 の何年何月何方年ハ滅し尽といふ  
 始終を量知通カケり。以上六の神通と  
 得る上智の佛と生ずハ偏ハ念佛の徳  
 かり。彼西遊記ハ載る孫悟空といふ



猿ハ七十二般の神通とて身と自由自  
 在ハ變化一瞬する内ハ十方里とま  
 る神通カケり。れとも猶釈迦如来  
 の六神通ハ及すと書り。此ハ六神通  
 と得る身とハ難有く尊は復と  
 ○入十方界救攝苦衆生と十  
 方の世界ハ入ても苦とて撞く苦  
 の振る衆の生と救といふ更あり。六  
 神通を得上智の佛となれば飛  
 行自在ハ十方の世界ハ入苦この



攝る衆生を救ふなりと有り。○虚空法界盡我願亦如是とハ  
虚空六虚空と刻て天の更法界十方世界より盡くせんやと云  
虚空法界盡人々。盡更ハ有るなり。此より義なり我願亦如是  
とハ我願も亦如是といふ更おて。虚空法界の盡更も如く我  
誓願も亦如是盡といふ更おいとなり。○發願已至心歸命  
阿彌陀佛。是發願文の終なり。發願已ハ願を盡し已てといふ  
更至心とハ一心といふ義おて。余念を雜す只一助念するといふ歸命  
阿彌陀佛とハ歸命ハ南無といふ意おて。種々解し方あれども歸命  
以て助之阿彌陀佛と念し。彼更なりと云。諸發願文の次ハ  
○光明遍照十方世界。念佛衆生攝取不捨との文ハ發願文の  
別の文おて發願文を唱己て此を唱るなり。是ハ念佛因縁の文とク  
觀無量壽經の第九出文なり。先○光明とハ阿彌陀如来乃  
御身より八万四千の光明を放しを智り。○遍照十方世界念佛  
衆生とハ遍く十方世界の念佛の衆生を照しおてといふ義なり。次ハ  
○攝取不捨とハ攝取て捨むるごとく更おて。十方世界の念佛と云ハ  
信仰する衆生ハ弥陀如来八万四千の光明を以て遍く照し。一人も世  
と攝取て捨むる。極樂浄土へ迎へるのよとの文意なり。  
右燒香文より此文まで。稱念佛數百遍。稱諸志と所の戒名俗名と出  
回向と云。勿論百万遍の導師と勤る時。回向文の順次。ト更なり  
百萬遍之起源

百萬遍之起源

これ百万遍の吾朝の始り起源八人皇九五代後醍醐天皇の御宇元弘元年秋七月の頃世上大疫癘天行て煩ひ光す者日くおろそかにせざるをり是れ依て聖王大い宸襟を悩む諸社の神官諸寺の僧綱小勅命て悪病を禳除せ給持祈禱と修せしむるも疫癘ハ敢て止む患病者いよく多かり然し其頃洛東智恩寺第八代目乃任信空上人も道德衆小勝し由其間有名を後醍醐天皇即ち空田上人を禁廷召し今都鄙小疫癘流行して病死する者多し浄土門小厄病を禳除せ給修法あるを行ひ修して万民の患を除せしと勅詔あり上人謹んで奉り勅答あるを八貧道が浄土門小別小疫病悉除の祈禱の法としていひも。只百万遍の祈禱念佛と申すのにて是と修しといは

如何ある悪病も平愈しといは但し百万遍と申すは辨称名の義小く二百八粒の珠数を十連繋ぎ合して千八十粒と称する人数を十一人小定のひて二遍繰巡しといは二万遍となり。十遍繰巡しといは十萬遍となり。乃至百遍繰巡しといは百万遍なり。其功德無量小と病息消滅の祈禱是れ小如者かといは奏聞せしむるを聖王聞りて依て修し寺小て其百万遍を修しといは勅詔しむるも上人領掌ありて知覺心ま歸りれ即ち徒弟衆を聚め弥陀の密号二百遍つて二十七日間修せられ多小奇あるをさし流行せし天行病忽ち鎮つて患病者平愈する吏を得洛中洛外の貴賤老若依て変限なり。帝此由を睿聞し始て宸襟を安んずし御感斜ありて空田上人を召して



數々の褒賞を賜り別して弘法大師真筆の利劍の名号と下賜り  
々々公て其時の倫旨并大師真跡の利劍の名号智恩寺の宝物と  
し宝藏の秘藏せり空因上人と大目目致絶し帝恩を拜謝しなりて故  
院とんり此表世上の慈た貴戚念佛の功を尊と自宗他宗の差別  
なり百万遍を修せざる家もなく世舉て智恩寺と百万遍くと稱せし  
智恩寺と呼令稀小て只百万遍が通号とあり其前後花園院の御  
宇文安六年は寛正二年は四年後土御門院の御宇文明元年等も  
疫癘流行せし依其時の帝より百万遍を修すを死よの宣旨  
下されり其度毎小智恩寺に於て弘法大師の利劍の名号をりけ百  
万遍を修せしる小悉く疫癘止る也後土御門天皇深く瘡感しり

以後都鄙小悪病流行せり毎月十六日小百万遍を修すなりと倫旨  
を下されり其時の倫旨も同く智恩寺の宝物とされりを智恩寺に  
於公毎月十六日小四海安全の祈禱の為百万遍を修せり也今以て忘  
りたりる功德不可思議の百万遍を浄土示の人へ中及及  
及今他宗の人へも病者の祈禱又先亡の精霊増進せ其授の為小百万  
遍を修しるを修り也  
○百万遍の源ハ阿弥陀經の中なる若有善男子善女人聞說阿弥陀  
佛執持名号若一日 中略 若七日心不乱の文より出たり抑南無阿弥陀  
佛の二の各号小佛を拜し念する時稱る宝号なりとの思心得一人の  
有るれも此六字の宝号小就て一千万の諸説ありて一字毎小意味深長か



此の中一紙上ハ述及ぶごとくといふも  
 省略の時ハ南無とハ梵語ハ翻  
 譯トシテ歸命といハ義なり都て經  
 文の梵語と翻譯トシテハ正翻ト  
 義翻トニ義あり今歸命と云  
 正翻なり義翻ト云ハ回  
 向發願といハ義と云ハ先歸命  
 と歸命ト刻命ハ命と刻ハ佛  
 の命ハ歸命トといハ意あり今回  
 向ハ思及回ト佛の法ハ向ト云ハ

善導大師の二河白道の釈文中ハ回踏行業直向西方とあり是  
 然ハ知命ハ但ハソカ今までハ東ハ南往とあり今所存ト回ト西ハ向  
 往を即回向といハ云ハ發願ハ願ト發ト刻字なり是ハ後生ノ大事ト云  
 志ト云ハ利欲ノ要ト云ハ心ハ云ハ其欲心ト回ト頼め助ト命ある佛  
 法ハ心ハ向ト云ハ助ト云ハ願を發スハ回向發願ト云ハ是ハ南無といハ  
 二字ノ義翻なり是ても猶思鈍ハ女重ハ會得ト云ハ南無ノ二字ト云  
 和けて助ト云ハ義ト云ハ南無阿彌陀佛ト稱ハ助ト云ハ阿彌陀佛ト願  
 南無觀世音并ト稱ハ助ト云ハ觀世音并ト願更其外何佛何菩薩  
 也ト云ハ南無といハ言を添ハ助ト云ハ更なりト心得るガ就日解安ト是ハ先  
 善導南無阿彌陀佛の六字ハ通別のニ義あり故奈何ト云ハ南無ト

佛と八通とて何の佛何の真言も通と用字なり。喻を南無釈迦牟尼佛南無業師佛とて類なり。又緒の神咒陀羅尼の上にも曩謨  
とひ或、南摩とひ或、唵とひ。翻譯名義集小曰南無或、曩謨  
謨或、南摩或、唵皆曰佉言小歸命と翻すと有るに陀羅尼乃  
曩謨も南摩も唵も皆南無といふ義なり。佛ハ素リ何佛も通  
て用ゆる字の南無と佛と八通といふ偈阿弥陀の三字を別といひ此二  
字ハ萬徳の般とる所にて一切の功德此三字小籠らすといふ也。阿字  
ハ即ち無の義小て空般若の徳を具十方緒佛無量の妙智皆盡  
阿字小攝在リ。○弥字ハ量の義小と即ち假解脫の徳を具十方緒佛  
無邊の徳海皆盡く弥字小攝在リ。○陀字ハ壽の義小と常住

法身の徳を具十方無限量の妙理皆盡く陀字小攝阿弥陀  
の三字と翻譯とれ即無量壽となる。偈小ハ量無壽といふ義小  
最も牙出度字なり。此三字の内一字を稱ても其功德廣大なり。況  
三字小南無佛の三字と添六字の字号とて稱るとハ無量無邊不可  
思議の功得を得るなり。如此萬徳攝在の六字あるを善導大師の  
一声稱念罪皆除と統る。唯一声南無阿弥陀佛と唱れば緒の罪科  
も皆除たると云ふ。二声の念佛と功德深た更如是増てや百万遍の  
功德の於ちや、疫癘天行病ハ及む如何なる難病業病たりとも  
立所治り又生前の罪障小依て浮くが死靈たりとも解脫して佛  
果を得ん。何の疑ありん願く先亡の緒精靈の年忌命日ハハハ

百万遍を修し、あふぬた妻なり。○回向文すして後左の文を唱へ

利劍名號の文

門々不同八萬四 為滅無明果業因

利劍即是弥陀號 一聲唱念罪皆除

右の文も善導大師の語なり先○門々不同八萬四と八人の煩惱、身の毛孔の數とひくく八万四千あり其煩惱より造る所の罪障、百般千般小分までも身の仇とたる八万四千變り、門々とは人の住宅の門々變り、罪障の品々も數多しとの喩、不同と八人の住宅の門々の種々、建方の種々有かり、罪障も品々ありて不同とたり。○為滅無明果業因とハ

為滅の二字ハ滅を為すの義無明果と凡夫ハ無明の闇とて欲

格憎愛乃煩惱心の月曇り闇夜の如くなり。理非もかみず人の

能も耳小入を百般の罪科と造ると無明果とも又業因ともいひて生

く世々身小付中して生替り死替りても滅する期なり。彼北國何某村

の寺右門が女房累とし女人生得面貌醜たふ心癖。格氣嫉妬小

よつて夫と右門が為小切害せられ其亡靈宙宇小迷ひて浮む更能ず

種々障得をなして夫を悩せしを是とみりち無明果もて前生より

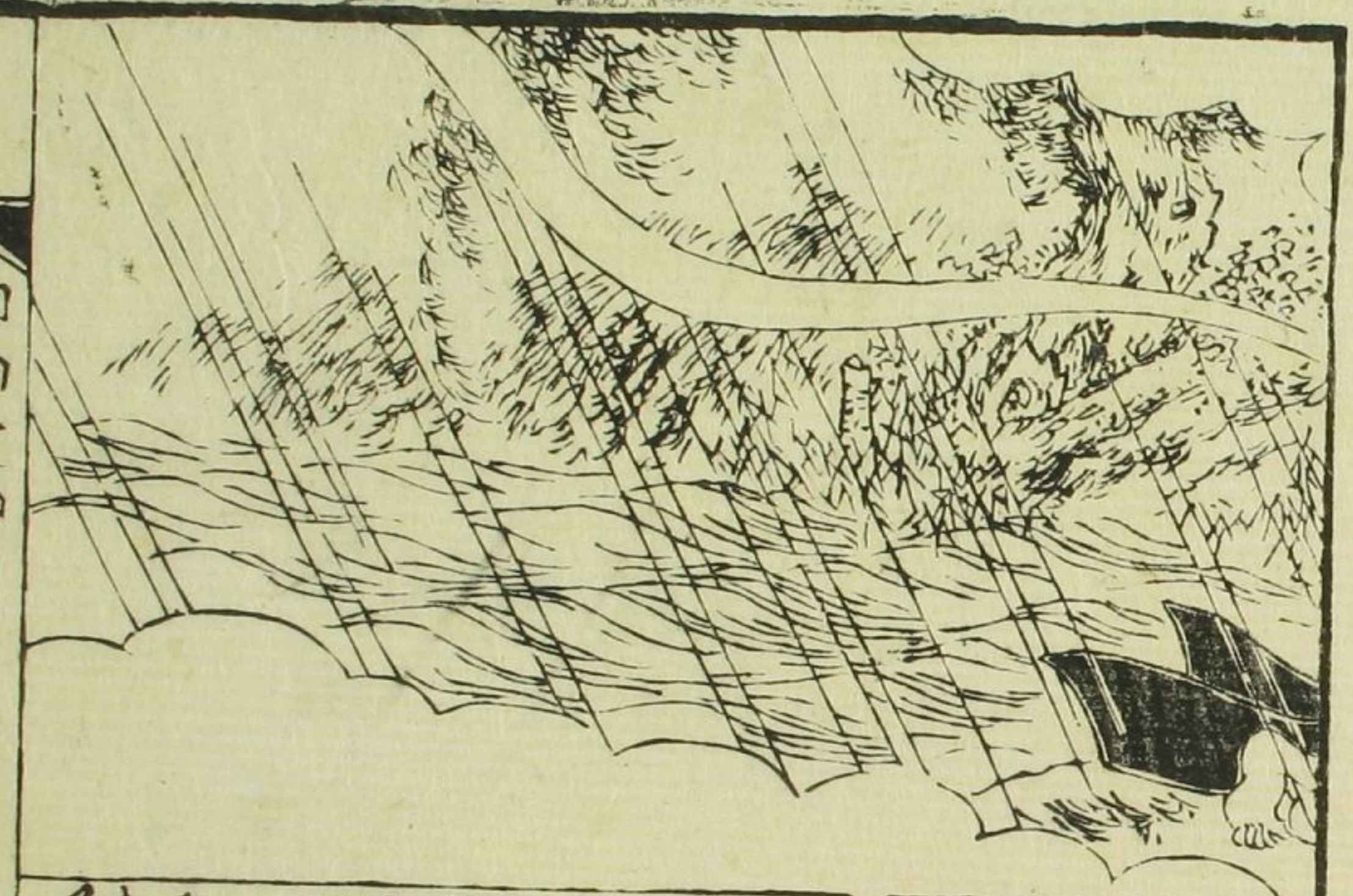
の業因の然しむる所なりとのをも佛法の端もやめて念佛の難有る

女中あつたるより煩惱の闇小昏し身滅亡し修羅の街小迷ひたり

されば身の仇なる無明果業因と為滅するゆゑ次の文を起むと語あり



○利劔即是弥陀号と右八万四千の煩惱より生たる無明果業因の仇を滅んとする其利劔ハ即ち是弥陀の号なりと云ふなり滅  
 小南無阿弥陀佛の名号ハ諸の無明果業因の仇を滅す利劔なりとて弘法大師六字の宝号と劔の形小書かひいと世利劔の名号と称す後醍醐天皇より智恩寺へ賜りし是なり



彼累が己靈の解脱せしも祐天上人のニ字宝号の功德依り吁念佛の徳尊む信む下  
 (一聲唱念罪皆除とハ只一聲念佛と唱念とも諸の罪皆除滅と云ふなり右四句の偈ハ悪魔邪神も怖る故小百万遍を勤る時ハ臨も悪魔外道未りて障碍と為す也  
 前小右の文を唱るなりこれを利劔

田向文中

三十

の名号ハ煩惱業因を除滅するの事アリ惡魔鬼降伏の功德有  
と知命一儲四句の偈終アモ珠數を繰テハ百萬遍トシテ又  
十方諸佛菩薩及ハ代々の祖師ヲハハ志の佛の戒名俗名ト喚  
出シ回向セテハ若シ病氣平愈の祈禱念佛ヲモ何の何某  
病息即滅の爲ト唱命

切回向

南無西方願王阿彌陀佛上酬慈恩十念と唱命  
以下はハ

南無大恩教主釋迦牟尼如來上酬慈恩上酬慈恩ハ  
慈恩と酬ハ  
上と云フ人

南無大慈大悲觀世音菩薩○南無德

大勢至菩薩○南無大聖文殊菩薩  
薩○南無大行普賢菩薩○南無  
六道延命地藏菩薩等各々報恩  
謝德十念○極樂界會聖眾○三世  
一切三寶報恩謝德十念○佛法守護  
諸天善神○佛法興立聖德太子哀慈  
護念十念○三國歷代祖師曇鸞大  
師○道綽禪師○光明善導大師

元祖圓光東漸慧成弘覺大師報

恩謝德十念 ○大紹正宗國師 ○記主

良忠禪師其外代々祖師等報恩謝德 十念

○為當日志之精靈何々佛果菩提 日

○當家先祖代々一家諸精靈增進

菩提 ○三界万靈六親眷族有緣无

緣乃至法界群生拔苦與樂 十念

○一座之同行志之諸精靈增進菩

提并同行之面々息災延命家業敏昌之為十念

右切回向をて左の文を唱へ

願以此功德 平等施一切

同發菩提心 往生安樂國

右四句の文の意ハ ○願以此功德ハ願ハ此功德を公てといふ更おて

修しきまろし百万遍の功の徳と以て次の句と起と語なり ○平等施

一切ハ平等ハ平う小等と刻字施一切ハ一切小施してといふ更又次の句

と起と語なり切ハ切しともおまのしとも刻字おて一切といふ維も彼由

餘さず泄さずといふ意なり施ハ遣更なり ○同發菩提心ハ門ド

菩提の心を發してといふ義なり ○往生安樂國ハ安く樂に國

往生じやうせいしめむべしつゝ更まありま樂らハ暑あつくあつくあつくあつ何なん更まも苦くとく更まなりなり安あんおおくく樂らたた國こくもも安あん樂ら國こくととなりなり或ある人ひとの辭ことば世よふ

訟しょう更ま喧けん塔たつ地震ちしん雷らい火くわ更ま節せつ季き飢き饑き鐘かね病やまの無ない國こくへ往ゆ

右みぎ四よ句くの偈げを和わ剌らてり時ときハ百ひゃく万まん遍べんの功こう徳とくと以もつて平へい小せう等とうく難なんむも  
彼かれもも施しししのの目め皆みな目めくく菩ぼ提だいの心こころをを棄すききめめるるの極ごく樂らく國こくへ往ゆ生まれ

させたまたまと願ねが更まなりなり○右みぎ四よ句くの偈げを唱とな終まりて珠たま数かずを納たくめめ一ひと座ざ  
燒や香かうして佛ぶつ前ぜん半はん向むか又また燒や香かう又また唱とな座ざ燒や香かう中ちゆうと真ま續ぞく  
念ねん佛ぶつを唱となるるなりなり儲たくわ燒や香かう又またすすとと四よ求もと誓せい願げん文ぶんを唱となるるなりなり

四よ弘くわ誓せい願げん文ぶん

衆しゆう生じやう無む邊へん誓せい願げん度だ 煩ぼん惱のう無む邊へん誓せい願げん斷だん

法ほふ門もん無む盡じん誓せい願げん知ち 無む上じやう菩ぼ提だい誓せい願げん證じやう  
自じ他た法ほふ界かい同どう利り益い 共くわい生じやう極ごく樂らく成じやう佛ぶつ道だう

右みぎの文ぶんの意いハ○衆しゆう生じやうハ衆しゆうの生じやうとと更まてて一ひと切せつ世せ界かい中ちゆうのの人ひとナリなり無む邊へんハ  
無む邊へんとと剌ら世せ界かいのの人ひとのの幾いく億いふ万まん人にんもも數かずののままれれをを無む邊へんととしし誓せい願げん  
願ねがハ誓せい願げん更ま度だとと割わくく此こ岸あしよりより彼か岸あしへへ度だししめめとと誓せい願げんをを  
濟さい度だととるることこともも濟さい度だととりり義ぎののままじじはは綠ろくああれれ衆しゆう生じやうハ度だしし難がたししと  
のの佛ぶつハ衆しゆう生じやうのの生じやう死し流りゆう轉てんのの苦くとと濟さいてて彼か岸あしへへ度だしてして中ちゆう心しん誓せい願げんののと  
佛ぶつ縁えんのの無む衆しゆう生じやうハ度だししめめととのの更まなりなり此こ岸あしとと沙しゃ婆ぱ世せ界かいののすすままにに  
のの彼か岸あしとと極ごく樂らくとといいははれれをを數かず限げんかかれれ衆しゆう生じやうをを極ごく樂らくへへ度だししめめとと願ねがふふ



を衆生無邊誓願度とのりて○煩惱無邊誓願断とのりて  
煩惱一惱と刻々欲恪憎愛の思ひが即ち煩惱して是より  
八万四千の罪と造り無明果業因とたもされを煩惱の數無邊とのり  
更と煩惱无边とのりて誓願断とのりて断切せりて誓願更とのり  
断ハ刃劔して物と断放す更して煩惱と断切りて願更とのりあり  
○法門無盡誓願知とのりて釈迦如来の教法は千万億小説分とあり  
其品數多くと盡知りて故に無盡とのりて法門とのりて人家の門を  
の數限なきが如く如来の法も無盡あるを人家の門を喻て法門とのり  
たり。誓願知とのりて無盡佛の法と願ハ知りてめりて誓願多りなり  
○無上菩提誓願證とのりて無上此上無とのりて一意菩提と梵語

小く翻澤説くあれども途よりへ正覚とのりて義なり。正覚ハ成佛する  
更して佛道於て此上の更なき。故に無上菩提とのりて誓願證とのり  
證ハ證と刻々無上成佛の道と願ハ證しめりて誓願更なる右  
四句と四未誓願として四の望と求願なり○自他法界同利益  
とハ自他ハ自他もとのりて更法界ハ十方世界の更同利益と同利  
益を蒙りて願あり。利益利益と刻々佛の慈悲と加りてのり  
幼て親を世界中の自他も他人も佛の慈と加りて祈る更○共生  
極樂成佛道とハ共生ハ共生ると刻々字小く右四の妙法を叶ひ  
て十方世界の衆生自他の隔なく共極樂浄土へ迎へりて  
成佛の道ハ往生させりて誓願なり。佛道小帰依るとハ

自他の隔なく後生を願ふは互に飲ひあふむる友の交をわけて  
 知る。余よりて我をるを信心良し。他人の念佛小疑を妬む陰口  
 小嫌うもあらず。是を我れといひて甚だ如来の法意小適する者  
 なく。能く慎み度くたり。偕四弘誓願文すして導師と勤る人  
 先く称名ふがう拜禮となり佛足を頂く。是を三礼九拜と云  
 是かて百万遍一座の畢なり。次小導師の一枚起請成續と聽せ  
 を毎し。即ち一枚起請の註解下の巻とて知りてなるとし。

浄土宗回文和訓圖會卷之中終



